

感染対策部

スタッフ紹介



部長
ぬくい ようこ
貫井 陽子
(感染症科
診療部長)

副部長	古川 恵太郎 (感染症科 助教)
副部長	松尾 恵美 (看護部副看護部長)
副部長	浦松 敬宏 (薬剤部副薬剤部長)
副部長	鍛 智行 (病院管理課長)
助 教	笹田 碧沙 (感染症科 助教)
病院助教	星野 大雅 (感染症科 病院助教)
感染管理推進者	菊地 圭介 (感染管理認定看護師)
感染管理推進者	中西 文美 (感染管理認定看護師)
看護師	中村 尚美
薬剤師	青戸 和宏 (薬剤部)
薬剤師	幸前 里奈 (薬剤部)
臨床検査技師	春日里佳子 (臨床検査部)

私たちの業務

- ◆ 高度医療において、感染症は克服すべき最重要課題であり、治療の成功を左右します。また院内感染対策は、病院における危機管理のひとつであり、診療科や職種を越えた病院全体での取り組みが必要です。感染対策部は、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務職員などの多職種で構成され各々の専門性を生かしながら高度先進医療提供の基盤となる感染制御活動を推進しています。
- ◆ 院内感染とは「病院内で患者及び医療従事者が感染する」ことであり、感染対策部の使命は、
 - 1) 患者さんを用意な感染から守ること。
 - 2) 医療従事者を感染から守り、安全に業務が遂行できるようにすること。患者さんを用意な感染から守るために、すべての医療従事者が手洗いおよび手指消毒をはじめとする感染予防対策が確実に実施できるよう指導教育しています。
医療従事者を守ることは、安全な職場を実現するだけでなく、医療従事者から患者さんへの交差感染を防ぐことにもつながります。
- ◆ 感染対策部の業務は大きく2つに分けられます。
 - 1) 病院内で発生する院内感染を予防すること、あるいは早期に発見し、適切な対応を行うことにより感染を最小限にとどめること。
 - 2) 病院以外の医療施設や介護施設など感染対策を必要とする施設に対して教育・啓発・指導を行い、京都府全体として感染予防対策のレベルをあげること。
- ◆ 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) と感染対策チーム (ICT) :
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)、バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE)、多剤耐性緑膿菌 (MDRP)、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌 (CRE) など多くの耐性菌が報告されていますが、「耐性菌をつくらない」と「耐性菌をひろげない」が重要な対策です。前者は、抗菌薬の適正使用が重要で、抗菌薬の種類や投与期間などについて感染症科とともに感染症治療を積極的に支援しています。
また後者は、適切な感染予防対策が実施されているかを病棟や外来を巡回し、チェックするとともに、感染対策上のアドバイスを実施しています。
- ◆ 耐性菌サーベイランス
耐性菌の出現を検査部と共同でモニタリングしています。
- ◆ 第一種感染症指定医療機関として、入院用病床が2床設置され、一類や二類感染症の患者を収容し治療します。
- ◆ 各診療科に感染対策推進医師1名、各外来及び病棟に感染対策推進看護師さらに中央部門には感染対策推進員を配置し、現場での感染対策が迅速かつ円滑に実施できるように組織づくりがされています。又感染予防対策リンクナース会を設置し、現場での問題解決に努めています。
- ◆ 専従の感染管理推進者を配置し、積極的に感染対策を実施しています。

府立医大 感染対策部 連絡先 TEL 075-251-5748 (部員室)